

第 6 回検討委員会の意見整理

1. 第 1 部会

●とりまとめ資料について

<とりまとめ資料の概要>

- ・ 北区産業の課題を踏まえた対応策のポイントは、①ブランドイメージの確立・情報発信、②連携促進、変化への対応による経済の好循環の創出、③愛着（シビックプライド）の醸成
- ・ 製造業は、ブランド化による魅力向上、区内企業同士の重層的な連携体制の構築、オープンファクトリーなど事業所と地域との接点創出や相互理解の促進などが必要
- ・ 非製造業・商業は、消費内容の変化への対応、多様な事業主体の連携による地域内での経済好循環の創出、シビックプライドの醸成による地域内消費の促進や新たな客層の誘致、外国人材や学生などの活用、地域キーパーソンの発掘・育成などが必要

<とりまとめ資料に対する意見>

- ・ とりまとめ資料の文言に関しては特にはない。
- ・ まとめが大変素晴らしいと思う。
- ・ 今までやってきたことの総まとめで非常に分かりやすいと思う。
- ・ シビックプライドの醸成による地域内消費の促進、新たな客層の誘致という表現があるが、シビックプライドの醸成によってこの 2 つが生まれるということが、私の中で腑に落ちないところがある。シビックプライドの醸成を通じた地域内消費の促進とインバウンド客などの新たな客層の誘致の両面から地域経済の活性化を目指すということと理解できるが、シビックプライドの醸成はここだけではなくて全体に関係することだと思う。
- ・ 資料はよくまとまっていると思う。

●将来像について

「産業と暮らし」が調和する循環都市 ～北区への「愛着」が育む産業魅力の創出～

- ・ 将来像のうち、「循環」という表現が気になる。おそらく経済の好循環を言いたいのではないかと推測できるが、個人的に疑問を持った。
- ・ 「交流人口」ということで、2 拠点居住、副業、兼業で、定住することは難しいが、2 拠点で住むことや、地方の企業と都市の企業が連携するなどといったことを作っていかなければならない。
- ・ 「交流」という言葉を扱っても良いのではないかと思った。例えば、「産業と暮らしが調和し交流する都市」など。
- ・ シビックプライドの醸成は北区の中で非常に大事な表現だと思っているので、北区の将来像の中に言葉が入った方が、もしかしたらよりしっくりくるのではないか。
- ・ 行政として尖った意見を出しづらいとは思いますが、このスローガンを見て、どのようなまちなのか思い浮かべられる方はそれほど多くないと思うので、北区に来るとこんな良いことがありますよといったことが分かるようなフレーズが入ると良いのではないか。

●その他の意見

- 人材確保が非常に難しい。ハローワークが製造業の工場見学を初めて企画してくれて、我が社でやることになったが、人材確保の一環として、製造業だけでなく、ものづくり企業をツアーで巡るといったことができればよい。
- 企業が発展するためには、若い人に沢山集まってほしい。それについては北区とハローワークが連携しながらできないだろうかと思う。
- 外国人人材の中でも高度外国人材、大学を出ていて、日本人と同額の給料を払う人材を雇おうという方向になっている。
- 小さいときの夏祭りの感覚、小さい頃の「連れて行ってもらった」という文化、孫が生まれたら孫を連れて夏祭りに行きたいという感覚が愛着になるのではないか。そういった意味で製造業も含めて、キラリと光る事業者を北区、商店街、東商などの機関が応援して、伸ばしてあげるようなことをこの政策で盛り込んだら良いと思う。

第1部会の総括

- とりまとめ資料は、これまでの議論の内容が反映されており、概ねこの内容でよい。
- 将来像は、「循環」という表現に違和感がある、シビックプライドという表現が入った方がいいのではないか、という意見が一部あった。

2. 第2部会

●とりまとめ資料について

<とりまとめ資料の概要>

- ビジョン設計のポイントは、①今の課題ではなく、将来の課題をどのようにしていくのかという考え方、②エコシステムとして、地域活性化につながるよう、循環する必要があること、③区民の賛同を得られるかという視点
- ビジョンの方向性としては、産業構造を「維持」するのか、「変革」するのかというよりも、これまでの産業構造をより豊かに「発展」させていくやり方が北区らしい。
- 成し遂げたい姿と大切にしたい価値観は、北区愛を育むこと。そのためには、歴史ある産業を観光化したり、ネットワークを構築したりすることのほか、区民が自ら主体的に情報発信したり、教育機関と連携したりすることによって、区民が参画している、区民が発信している、自分たちが北区を作っているという考えをバックアップしていくような方向性が必要である。

<とりまとめ資料に対する意見>

- 大きな相違はない。方向性の「発展」については、新しいものを作ることは言うのは簡単だが非常に難しい。今あるもので強みがあるところを伸ばすことが重要
- 資料の中に「区民交流」「区民間の交流」などあるが、区民間に限定する必要はないと思う。外の人がいきたいと思ったことがあって「北区はやりやすい」と思って来る人がいて、そのような方に来てもらえるようなバックグラウンドを整えていかなければならないと思う。
- 区民といかに協同し、知ってもらったり、一緒にやっていくことで新しい産業を生み出していくといった視点に集約されているという印象だった。

- 一人でやっても上手く行かないので、「みんなで頑張ろう」と思えるかということが非常に大事だと思った。
- 基本的に全て同意する。
- 賛同する。

●将来像について

区民の参画と区民の発信による北区愛の醸成

- 「北区愛」はいいことだが、それを前面に出すと愛情の搾取になると思う。
- 「北区愛」については、1本にするというよりは、色々なものがかみ合わされるものができればいいと思う。

●その他の意見

- 消費者というよりは、自分が作り手側、参画するといった機会やチャンスが北区にはあると認知されると、子育て世代だけではなくてシニアも北区に対して好印象で、こんなにも応援してもらえるのだと感じて、消費者で終わるのではなく夢を叶えられる区に感じると思う。
- 商店街を子育て世代が使いやすいように支援できたらと思う。
- 色々な交流を繋げる立場の商店街の地域応援団が必要だと思う。
- 商店街の中は閉鎖的で、新しいアイデアが拒否されてしまうこともある。これをいかにしてピックアップして、協力してあげるかということを考えている。
- 外部の人が流入したときに自然と北区を愛するようなことが連携でできるのではないかとと思う。間をつなぐ人、間をつなぐ仕組みをどのように合わせるかが重要だと思う。
- アクセレーターの方、インフルエンサーや芸能人ではなく住民の方が自発的、多発的に、色々なところで色々な人が出てくるといいのではないかとと思う。

第2部会の総括

- とりまとめ資料は、ビジョンの設計や基本戦略など、これまでの議論が反映されており、この内容でよい。
- 将来像は、「北区愛」という表現が前面に出ることはいかがなものか、という意見があった。

3. 合同会

●意見統合資料について

<意見統合資料の概要>

- 全体的に、各部会で出た意見は共通する部分が非常に多い結果となった。
- 製造業・非製造業・商店街＋商業・区民に分けて各部会で出た意見を整理している。表現が異なる意見もあるが、趣旨としては共通した意見である。
- 将来像は次回に議論し決定する予定
- 基本戦略、施策イメージは事務局で案を作成して次回提示する予定

<意見統合資料（各部会における意見）に対する意見>

- 各部会で出たご意見は、共通する部分が多くあった。
- どちらも非常に似通った意見が出ているということは、まさに北区に根ざした考えをどちらの部会の方も持っているということで、だからこそ、全体のイメージ像は良いものだと思っているが、茫漠としているという問題認識が共有されたということが重要だと思う。
- 魅力ある色々な企業があるが、若い人達に見てもらえるようにするためにはどうするかが問題で、色々な企業を1日で回るようなツアーや企画があれば色々な人に知ってもらえると思う。地元の人達にもっと応援してもらえるような企画があればいいと思う。
- 製造業は製造することが主だが、今は販売もしなければならない。商店街と連携をしながら自分たちも店を出すとか、販売をする方達が沢山いるのでそこからノウハウをいただいて連携しながらやっていくことも必要ではないかと思う。
- 外国人の高度人材の募集をしたいのだが、その場合、我が社の社員が英語で高度人材の外国人の方に指導しなければならないので、実際は難しい。
- 一社に勤める時代ではなく色々なことにチャレンジしなければならないという時代の変化もあり、そういう方達が増えているので、そういう方達がチャレンジしやすいような北区になると可能性が広がると思う。
- 創業には2つの方向があると思うが、小さいビジネスの方が商店街の活性化にはいいと思う。ブランディングをしていくと創業したい人が集まってきて個性豊かな商店街になるのではないか。
- 北区のものづくり、製造業を子ども世代、親子世代に浸透させることによって愛着を高められるものとして、北区はものづくり、JRの鉄道だったり、特徴を持たせて、楽しくできるのではないかと思った。
- 各事業者をつないで回すようなネットワークづくりができれば、もっともっと北区に愛着を育むまちづくりになると思う。
- 観光振興の一部として、商店街を回るツアーがあり、できなくもない話でやろうと思えばやれるが、商店街の悪いところはいつも受け身になってしまうこと。
- 花火会や盆踊りを文化として残すということがまちを作っていくと思う。
- 第2部会で重要にしていたことは、目的をどこに置くかということ。産業ビジョンなので10年後の繁栄のために何をしていくかということになると、10年後に大事なことは何なのかということになる。大事なことは、北区に住んでいる人達が豊かになるために、ライフイベントに沿った産業発展をしていく、メッシュを細かくしていくことが第2部会で議論になった。何のためにやるのかということを大事にしていきたい。
- 担い手はいるがそれぞれがバラバラになっているところが問題で、それを接着するような役割が必要だと思う。

合同会の総括

- 各部会とも概ね意見の趣旨は共通している。
- 将来像は次回に議論し決定する。
- 基本戦略、施策イメージは事務局で案を作成して次回提示する。